第４回　仙台市文化芸術推進基本計画検討懇話会　議事録

１	日時	令和５年 11 月８日（水）15 時 00 分～17 時 00 分
２	場所	仙台市役所本庁舎８階　第五委員会室
３	委員出席数	出席委員 10 名（垣内恵美子会長、吉田利弘副会長、青木ユカリ委員、五十嵐太郎委員、笠原信男委員、菅野幸子委員、佐藤李青委員、柴崎由美子委員、庄司遥委員、山田淳委員）
４	議事録署名委員	垣内恵美子会長、佐藤李青委員
５	議事要旨	

１．開会

・10 名の委員の出席により、要綱第５条第２項に規定する定足数を満たしていることを報告。

２.意見交換

・以降の進行役は垣内会長が務める。

【懇話会の運営の確認】

・議事録の作成について確認。事務局が作成した議事録の案について、会長と他委員１名で確認、署名をして議事録とし、仙台市のホームページ等で公開すること、および議事録に署名をする委員は持ち回りとし、今回は佐藤委員に依頼をすることとし、各委員、佐藤委員了承。

【（１）（仮称）仙台市文化芸術推進基本計画の中間案について】

・事務局より資料１の報告、資料２、３に基づき説明。

垣内会長　前回までの懇話会でご確認、ご議論いただきました計画の骨子案に、さらに具体的な内容を加えた中間案について、ただいまご説明をいただいたところです。本日は特に意見交換のテーマを分けず、中間案全体について、お気づきの点など、委員の先生方からご意見を頂戴できればと思っております。また本日は、発言順の指定もございません。ご発言、ご意見、コメントがある場合には、挙手にてお知らせいただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。資料は事前にご覧いただいていると思いますけれども、ご質問や疑問点などあれば、それも併せて頂戴できればと思っております。いかがでしょうか。それでは佐藤委員お願いいたします。

佐藤委員　具体的な施策が入り一気に情報量が増えて、色々な話が出てきたと思ったのですが、計画としては、基本理念があり、重点プロジェクトがあり、目指す姿の横断する施策というところが重要なことなのかなと思いますので、その辺で気になったところと疑問に思ったところを何点か、資料３に沿って具体的に申し上げたいと思います。

まず一つ目が 20 ページの基本理念のところですが、これまでの議論が明確に織り込まれていて、「多様な担い手が対等に連携し合うことで」といった具体的なところまで書いてあるのが非常に良いなと思いました。また、この文章を読むと、「多様な個性が輝き、まちの未来を拓く」という理念があり、後段にある、「本市は年齢や障害の有無、国籍等に関わらず、あらゆる市民に文化芸術を享受する機会や自由に創造する機会がひらかれることを目指します」というところが、重要なポイントなのかなと読みました。改めて全体を見たときに、この段階で言葉を変えるかは検討が必要かと思うのですが、「多様な個性が輝き」の、この「輝く」という言葉が２段落目の後段の方に、「多様な個性が輝くことで発展し、人と人をつなぐ架け橋としての役割を通じて」というところがあります。計画全体を読むと、文化芸術活動を通じて作られたものや表現や作品があって、それがより多くの人に届くというニュアンスがあるように感じました。本計画が、人を主体に、文化的な活動をすることや、人の営みとしての文化の部分を強く出すときに、１個１個が強く輝くというよりは、むしろその多様な個性や、生き方を認め合うことといった言葉の方がニュアンスとしては重要なのではないかと思いました。つまり、２段落目のところは、「文化芸術は多様な個性を認め合うことで発展し、また人と人をつなぐ架け橋としての役割通じて」という言葉の方が馴染むのかなと思いました。「輝く」は全体で使っている言葉でもあるので、どう校正するかはあるかと思いますが、改めて読んで思ったことをお伝えしました。

もう一つが、24 ページの重点プロジェクトのところです。この重点プロジェクトがこの懇話会で議論してきたものの中で、何に比重を置くのか、具体的な軸として出ているものだと思うのですが、主な取り組みのところで表現として、改めて大事だなと思ったところを申し上げると、一つ目の「担い手を育む協働プロジェクト」です。主な取り組みの二つ目、横断する施策のところにある「担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討」というところなのですが、改めて「育成」と「活動環境の向上」という言葉が入っているのは重要なところかなと思いました。この間の議論で、仙台には既に活動している人がたくさんいて、その人たちが活動を続けられるための支援をどうすればいいかという話が出ていたと思いますが、その意味で、この「活動環

境の向上」というのは、大事なところかと思います。これは意見なのですが、「市内を拠点に活動する活動主体同士の意見交換の場を構築する、声を拾う」というところですが、「情報交換の場」で集まってみんなで情報共有するよりは、もう少し積極的に、自分たちの活動を改善していくような学び合いの場を作るといったところまで踏み込んだ書き方にしても良いのではないかと思いました。「活動主体同士の情報交換の場」を「学び合いの場」まで踏み込んだ方が、自分の活動に忙しい中で集まった連絡会議みたいになるより、自分たちの課題をどう改善するかという場になった方がいいのかなと思います。これは具体的な施策に関わるところなので、一つのアイディアとして申し上げるところです。

さらに連動して②の「創造性をひらく子ども・若者プロジェクト」のところ、改めてこの若い世代というのはどこまで入ってくるのかなと思いました。これは運用上の解釈に関わると思うのですが、単純に初めて作品を発表する人を若手ととらえるのか、もう少しその活動のキャリア形成の段階にある人までを若手ととらえるのかによってやる事も変わってくるかなと思います。単純に 10 代、20 代の人たちを対象に考えているのかどうか。実際活動やキャリアで考えると、ジャンルにもよると思うのですけれど 40 代前半ぐらいの人までは、若手と十分に言えるのではないか、その幅を考えることが、実際施策につなげるときは出てくるのかなと思います。

また、この②のところで出た担い手の人たちが、①の方の継続の方の担い手になっていったり、発信性を高める④や、③の担い手になっていくみたいなところで、実際のところ、施策間でのこの担い手の連動性、動きみたいなところも、もしかしたら成果を見ていくポイントとしては、計画運用に入った時には重要になってくるかなと思いました。

次に、34 ページの施策の展開、基本施策④のところなのですが、「発展的な文化芸術活動の推進」という「発展的な」という言葉の意味がとらえにくいので、別の言葉に変えた方がいいのかなと思いました。むしろ多様な分野と連携していったり、多様な分野でも文化の力を発揮していくみたいなところが、本文としては入っているので、上に行くというよりは横と連携するような言葉に変えた方が良いのではないかなと思いました。

最後に 49 ページの横断的な施策の最後、「効果的な情報発信の推進」については、課題のところでも繰り返し、情報の届け方であったり、情報の発信が課題として出ていたので、横断的な取り組みとしては重要になるのだと思います。ただ、最後の「文化情報の一元化の検討」ですが、むしろ一元化よりは多元的な展開をしていった方が良いのではないかと思います。これも具体的な施策の話かもしれませんが、これを行政がやると言った時、どこか

に行くとすべての情報にアクセスできるようにしてほしいという要望があったり、それに応えることが念頭にあったりするのかなと思いつつ、むしろ重要なのは、メディアに携わる様々な主体と連携しながら、情報が色々なところで取得できるようにしていくことや、行政であれば色々な分野のメディアも持っていたりすると思うので、各施策で生まれた情報を、既存のものに載せたりするような形で連携をしていって、情報の効果を高めるという方法を考えた方が良いのではないかと思います。アクセシビリティの話も度々出ていたと思うのですけれど、むしろ一つの場所にあるとアクセスできないけれど、色々な場所にあった方が色々な人たちがアクセスできると思うので、むしろ一元的なものを新しく作って頑張るよりは、今あるものにうまく埋め込むような多元的な展開や、市民の人が情報を使えるようにするような、情報の利活用の推進が必要だろうと思いました。ですので、一元化を検討するよりはむしろ多元的な展開の検討にしていった方が、全体のアクセス拡大というところにも繋がってくるかなと思ったところです。

それから全体を通じて一つ、この視点はどうなっているのかなと思ったところが「アクセス」で、障害の話が出てきたり、子どもが出てきたり、また、国籍という言葉が出てきたときに、例えば海外にルーツを持つ子どもとか、日本語を母語にしない人たちとか、そうした多文化共生の文脈で語られる施策については、既にあるので住み分けとして入っていないのか、どこかで連動性が想定されているのか、視点としてここにはないのかなと思ったところです。

垣内会長　ありがとうございます。「発展的」というのは、やはり読んだときに引っかかる言葉ではあります。今のご意見、全体についてでもいいですし、事務局の方から補足的なご説明をいただいた上で、次の質問に入りたいと思いますが、いかがでしょうか。

文化振興課長　まず先ほどご指摘いただきました 34 ページの基本施策④の「発展的」の部分ですけれども、おっしゃる通り、文化芸術の力を福祉や教育、まちづくり等のいろいろ分野の方に連携をさせて、効果を高めていくといったような、どちらかというと横に広げていくといったイメージで使っている言葉でございましたので、「発展的」という表現については、再度こちらでも検討させていただきたいと思います。

それから 49 ページの「文化情報の一元化の検討」につきましては、確かにこれも佐藤委員のおっしゃる通り、様々な文化に関する情報が色々なメディアに散らばっているので、どこか一つそこを見れば、すべて情報がわかると言ったような一元化についてのご要望をご意見で伺っているところもございまして、こうした記載をさせていただいたところです。確かに、そういっ

た一元化もありつつ、各情報メディアともう既に繋がっている方々もいらっしゃいますので、そういったところと相互に連携をさせていくような、そういった取り組みは必要と考えております。そういったことも踏まえた施策の展開を行ってまいりたいと考えております。

垣内会長　ありがとうございました。文化情報の一元化の前に、利便性というところが入っているので、ワンストップだと非常に便利だという、そういう趣旨ではありますが、さらに何か追加でございますか。

佐藤委員　「多元的な」と言ったのは、バラバラと情報があるというよりは、その分野やアクセスしたい人たちのコミュニティにとって中核になるような情報源と連携していくというイメージでしたので、今おっしゃっていた相互連携の考え方で良いのかなと思います。もう１点、先ほど申し上げた多文化の面の施策の連動性についてお伺いできればと思います。

垣内会長　追加で説明をお願いいたします。

文化振興課長　確かに多文化共生は、特に外国にルーツをお持ちの方に対する情報へのアクセスの関係については、現状の計画の中には掲げていませんでしたので、計画の方への記載について、検討させていただきたいと思います。

垣内会長　ありがとうございます。あらゆる人にアクセスできるようにと言っているので、その、「あらゆる」の中に、そうした方々も入るというところをどこか入れていただくということでよろしいかなと思います。では次に、吉田委員お願いいたします。

吉田副会長　今、佐藤委員から出ましたいわゆる「発展的」という言葉と「多元化」、「一元化」、私も気になったところでした。

「発展的」という言葉については、骨子案では具体的な取組みが書かれていなかったので、一体どういうことを意味しているのかなと、具体的な内容を今回の中間案に期待していたところでした。中間案を読むと、ある程度説明されているのかなと思います。例えば、基本施策④の考え方の最後に、「様々な社会課題に向き合う取組み」、要するに、文化芸術というものを単なる一般的な文化芸術の枠組みに留めるだけではなくて、社会生活の改善に、または課題の改善に向かう新しい文化のあり方ということで、もしかしたら仙台市に新しい文化の風を吹かせてくれるのかなと。災害文化をはじめ、その他の生活に関する文化のあり方ということに、風穴を開けてくれるのかなという期待を持っています。ですから、現段階のところはこのくらいの文面で良いのですが、今後これをベースにした具体的な施策、実践に期待したいと思っていたところです。

それから情報発信については、以前から私は大切だと申し上げておりましたけれども、仙台市の芸術文化活動は、色々な部署で色々なものをやって

いた。ところが、その連携が少し弱いために、充実というところまでいっていなかったという指摘が多くありました。ですから、一つの方法として、今まで多元的にやってきたけれども、多元プラス一元の情報発信というものをなさるのかなということで受けとめている次第です。

垣内会長　ありがとうございます。おっしゃる意味は、非常によく分かるところなのですけれども、日本語として「発展的」と考えたときに、一般の方がすぐにそのように見えるかというのは少し心配するところではあります。よくあるのは「課題解決」でしょうか。今は世の中すべて、社会課題に取り組むということで、図書館も、博物館も、全てあらゆるところで「課題解決」と言うのですけれど、これを「課題解決」と片付けてしまっては、あまり馴染まないということで、非常に苦労されてこうした言葉になったのかなと思いますが、もう一歩こなれた、もう少し易しい言葉で、多様な分野に波及していくとか、貢献出来るとか、読んだときにイメージがわくような形の文章にしていただくと良いのかなという感じがいたしました。

先ほどの多元化と一元化、どちらか一方でということではないというところは、多分この懇話会でもコンセンサスがあるところかと思います。あとは、誰にとって使い勝手がいいのかというところは、考えていく必要があるかなということかと思います。それでは次に、五十嵐委員お願いします。

五十嵐委員　前回欠席していたのですが、出来上がった基本理念とその細かい説明を読んで思ったことをお話します。対市民向けには良いのですけれども、世界から見た時の仙台という視点がもう少し積極的に欲しいなと思いました。文章の中では「世界に広げる」とか、「世界から集う」とか、「文化芸術によって都市の個性が磨かれる」と書いてあるのですが、要は仙台にしかないというようなものがどのぐらい文化で出せるかというのは、重要だと思います。ニューヨークやロンドンのような超巨大都市ではなくても発信できるのが文化のいいところで、仙台は十分そのポテンシャルは持っているはずだと思っています。例えば災害文化の創造拠点として、震災メモリアル拠点との複合施設の話があります。今まで既に岩手から福島にかけて色々な伝承施設や復興建築がある程度出揃ってきていますけれども、もう全く評価できないものもあります。今、どういうものがでてきているのか分からないのですが、この震災メモリアル拠点は東京に行ってもないし、京都にもないし、東北の被災地だからこそできる。既に出来ているもので、あまりよくないものもありますが、これはちゃんとつくれば、仙台市外からも人が来るし、世界からも人が来るようなものに十分なり得る可能性があるので、こういうものは本当にしっかりいいものを、失敗例を反復しないようにしていただきたい。世界から見たとき、あるいは仙台市外から仙台に来てみたいとか、そう思わせるよ

うな意味を持つと思います。

それから、芸術の中に建築が入ってるか、気になって見ていたら、47ページでしょうか、「建築資源の活用」とあったので一応建築も芸術として認めてもらっていると思ったのですけれども、せんだいメディアテークというのは、本当に建築の世界においても大変画期的な建物で、建築の勉強をしている、あるいは建築の仕事をしている、デザインに関心のある人であれば、皆この名前を知っています。日本に行ったことがなくても仙台に行ったことがなくても知っている。つまり、仙台にしかなく、それだけ世界に大変大きなインパクトを与えた施設で、こういうものがあるというのは、僕はすごいと思っています。もう20年経っているので、建物に関しては文化事業の予算だけはどうにもならないと思いますが、そういう個性的な文化施設がこれからもできて欲しいと思っています。

せんだいメディアテークの活動には関心があって、ずっと見ていたのですけれども、初期の頃は、今よりもっと展覧会の開催が多かったり、あるいは若手のアーティストを顕彰するようなアワードみたいなものもあり、もっと活発に活動していたような気がします。今、アート・ノード・プロジェクトが併走してはいるのですけれども、展覧会だけを見ていると、規模が縮小しているように見えて、数字を見たことはないのですけれども、予算的に結構絞られているのではないかなと思って見ていたりするので、本当に大事な場所だと思っていただいているのであれば、メディアテークをもっと活発に動かしていただきたい。

また、前から気になっているのですが、メディアテークのWi-Fi環境が良くない。今海外に行くと、大体公共施設は当たり前にWi-Fiがあるんですよね。いち早くメディアテークと名前がついた施設にも関わらずそれがないというのは、やはりそういうものを入れる予算もないのかとすごく心配になる。せっかくこういういい場所を持っているのだから、それをもっと伸ばして欲しいし、建築の関係者でデザインに興味がある人はもう、メディアテークで展覧会を開いていなくても見にきて、Wi-Fi繋がらないのかと知ったら、軽いショックを受けるのではないかと思います。

メリハリという意味では、先ほどの震災メモリアルやメディアテークのように、ある意味で仙台にしかないインパクトを持ったものというものも文化芸術には大変重要だと思うので、そういうことをもう少し見てあげてくださいという感想です。

垣内会長　ありがとうございました。何か具体的な修正点や追記など、そういうことはよろしいですか。

五十嵐委員　ここからメリハリをつけるのであれば、そういうつけ方があるかなと思っ

た次第です。

垣内会長　ありがとうございます。ということで、事務局の方で受けていただければと思います。それでは次、山田委員お願いします。

山田委員　今回、第３回の会議を経てよくまとめていただいたなという感想を持ちました。今、おそらく文脈の問題であったり、解釈論といいますか、そういったお話があったと思うのですが、よりわかりやすく意図を明確にされた方がいいのかなと思いました。

それから 52 ページの第５章、計画の推進、ここが肝だと思っています。計画を実行していく際におそらくここに書いてあります２行目、対応についての協議・検討を行う推進会議とありますけれども、やはりこういった推進会議自体が、実際にどういった評価を目指し、見直し改善なども考えられた上で、評価をしっかりおやりいただくということ、ここの実効性が大事なのかなと思っています。PDCA サイクルをしっかり行える体制について、ここに書いてある通り推進していただきたいです。

推進にあたっての指標について、仙台市文化芸術に関する意識調査の現状と目標ですが、この数字のたて方について、簡単にご説明いただけるといいのかなと。現状 43.3％で、5 年かけて 50％というのが、少し低くないかなと単純に思ったりしました。

垣内会長　ありがとうございました。それでは数字のアルゴリズムについてご説明お願いいたします。

文化振興課長　推進にあたっての指標、目標値についてございますけれども、これについては精緻な計算をしているわけではなくて、他都市の同じような指標における目標値であったり、そういったものを参考としながらここまで伸ばしていきたいというところで設定をさせていただいたものです。

山田委員　そうすると例えば、「文化芸術に対する満足度」が 50％、もしかすると２年ぐらいで達成する可能性もあるわけですよね。そういった時の上方修正なども考えられるということでよろしいでしょうか。

文化振興課長　この市民意識調査につきましては、計画の改定の際には当然調査を実施いたしますけれども、中間年でも数値を確認するということも検討しておりまして、その際にもうすでにクリアをしているといった場合には、上方修正について検討の必要があるものと思っております。

垣内会長　ありがとうございます。なかなかこういう数字は、他の自治体の数字を見ていても、そんなに急激に上がっていくという感じではないということもございますが、そこはモニタリングしていただくということで。では菅野委員、よろしくお願いいたします。

菅野委員　具体的な方法というよりは全体的な考え方に関していくつか気がついた点

がございまして、意見を述べさせていただきたいと思います。

まず第１は、先ほど五十嵐委員がおっしゃった、国際的な観点がちょっと足りないのではないかといったご指摘なのですが、まずそれを感じました。東北での立ち位置、仙台の立ち位置というところは非常によくまとめていただいているのですが、例えば、内なる国際化という、多文化共生的観点も含められているのですが、一方で、これから文化観光、経済と繋がる分野でのコンテンツ産業において、やはり国際競争力というところがこれから問われている時代において、国際的な観点がちょっと足りないかなと思いました。その点、例えば、姉妹都市などの文化財団や文化団体との国際共同制作的な事業など、色々なやり方があると思います。あるいは国際戦略というところにも通ずるのかもしれないのですが、色々な分野とも繋がるところだと思いますので、そういった観点がもう少しあっても良いと感じました。

それともう１点、第４章の仙台市の施策の展開、29 ページに「各文化施設の取組みの充実」とありますが、これが各施設毎の取り組みになっておりまして、全体的にそうなのですけれども、どうしても縦割りの考え方の文化芸術の枠組み、例えば音楽であるとか、演劇であるとか、歴史であるとか、そういった分野別の枠組みの中にとらわれた感じの事業形態の展開というイメージに思われます。それから「劇都」それから「楽都」というような、この言葉遣いもそうなのですけれども、これまでの方針に対してのバージョンアップ、仙台市として文化芸術の施策を展開するときに、そのバージョンアップの考え方が入った方が良いのかなと思いました。そうしないと現状維持に終わってしまうという印象が拭い切れないような気がいたしました。

それに加えて、やはりこれから若い人、それからコンテンツ産業を含むクリエイティブ産業であるとか、建築デザインというところも、今、国際競争力が問われているところではあります。そういった今後のことを考えるときに、文化芸術に親しむことに加えて、そういった若い人たちのクリエイティブな力を伸ばしていくプログラミング教育というのも重要です。分野横断的なその事業の作り方ということ、例えば音楽と現代アート、あるいは伝統芸能と現代アート、それからメディアアートというのが今どんどん分野横断的に、様々なプロジェクトが展開されていて、そこから刺激的な作品やプロジェクトが生まれてきているような世の中になってきていると思います。そういった分野横断的なプロジェクトに対する言及がなかったような気がしております。それと同時に、文化芸術というのは試行錯誤のプロセスというのがまた重要になってくると思うのですね。失敗する、あるいは実験する、試してみる、そういった考え方も非常に重要なことだと思います。今後、そういった「試行」という視点も取り入れていただければと思いました。

それから52ページの実施体制ですが、進捗状況の管理であるとか、こういった観点はパブリックマネジメントとして非常に重要なプロセスではありますけれども、管理しすぎない程度にお願いしたいと思っています。文化芸術というのは何らかの余白、はみ出るもの、それから予想がつかないもの、そういったものがたくさんあります。管理というところに集約されてしまうと、それがギクシャクしてしまうという性格を持っているかと思います。全体的には、そういった余白を、あるいは余裕と言うべきかもしれませんが、そういった姿勢というものが大切ではないかと思いました。

垣内会長　ありがとうございました。何か事務局から追加でご説明する点などございませんでしょうか。国際化、色々な考え方があると思うのですが、日本人は真面目だから、他の国の人がどう考えているかと考えると思うのですけれど、ヨーロッパなどを見ていると、自分たちが満足すれば、自分たちが楽しんでいれば他の人も楽しいという考え方なのですね。それに比べて日本人は真面目だなと思いますが。さて、いくつか論点があったかと思います。コメントをお願いいたします。

文化振興課長　中間案22～23ページの、目指す姿の５つ目に、仙台における文化的な取組みを世界に発信をして、国内外から多くの人を惹きつけるといったところを掲げており、また重点プロジェクトの中でも、文化拠点、新たな施設の整備や、あるいはマンガやアニメといった国際的にも注目をされている文化コンテンツによる賑わい創出プロジェクトといったところにも取り組んでいくというようなところで、計画の方にも盛り込んだところではありますけれども、なお具体的な視点というのが足りないとのお話でございましたので、書き方については、検討してまいりたいと思います。

垣内会長　ありがとうございます。いくつかコメントをいただきましたので、少しメリハリをつける際にそういったことも考慮していただければと思います。では、庄司委員お願いいたします。

庄司委員　今回初めて計画の中で、今まで何となくスローガンとして「楽都」、「劇都」という言葉が使われていたのが、この中に盛り込まれたということに関しては、非常に価値を感じております。

また、39ページにありますように、具体的な若手のチャンスにつながる場ということについて、仙台国際音楽コンクールの取組みについて記載がありますが、実際に各コンテスタントが自分の国に戻ってから、仙台でこういうコンクールがあって、こういうところが良かったよ、というような発信をしているという事実があります。先ほどからお話の出ている国際的なイベント、文化芸術のコンテンツが国際的な役割を果たすものになり得るということ、それは、仙台に来て、その後それぞれの国に持ち帰ったものが、世界に

広がっていくという、発信につながるということかと思いますので、こうした国際的な文化芸術の取組みが、施策の展開の中に盛り込まれていることは重要かなと思います。

それから、文化拠点整備プロジェクトというところで、拠点の整備＝ハード面とソフト面と書かれていたのですけれども、その他に文化拠点で働く人材についての視点、仙台から出ていって、活躍した人々が仙台に帰ってきてからも世界を広げていくということに関して、何かしらの形で取り込む、盛り込むことがこの中に出来ないかなと感じました。仙台出身であるとか、仙台でアートの体験をした人たちが、世界で活躍するなり色々な世界を広げる中で、仙台に帰ってきたときに、この場所、拠点が、そうした一人一人の活動に刺激を与えてくれるような場所になって欲しいと個人的に思うところです。UターンやＩターンなどありますけれども、そういうアーティストたちが戻って来られる、アーティストたちの活躍の場として仙台を見る、先ほどのコンクールのコンテスタントたちが戻って来ることなども同じことだと思うのですけれど、そうした帰って来る場所としても文言が少し加えられないかなと全体を見ていて感じた次第でした。将来的に、発信の場であると同時に、還元の場としての文化拠点になって欲しいという、全体を通しての感想でした。

垣内会長　ありがとうございます。これは功績の顕彰とは違うのでしょうか。全国的に権威のある大会で優秀な成績を修めた方など、顕彰するということでは括りきれないというところでしょうか。事務局の方で何かお考えがあればお願いします。

文化振興課長　全体版の 24 ページに掲げております重点プロジェクト②の「創造性をひらく子ども若者プロジェクト」、こちらの方では、若い世代のアーティストの活動を支援していくとしておりますけれども、この中には仙台から世界に出て行って帰ってきた方々、そういった若手の方々の活躍の場というものを作っていきたいということで、重点プロジェクトに掲げた次第でした。この書き込みではそれが分かりづらいかもしれませんが、そういった活躍の場の機会の確保といったところも、こういったプロジェクトの中で考えてまいりたいと思っております。

垣内会長　ありがとうございます。よろしいでしょうか。それでは笠原委員、お願いします。

笠原委員　全体を拝見して非常によくまとまっているなというのが、私の印象です。ただ、この基本政策、1 から 11 まで上がっているところですが、内容的にある程度、こういったものが出てくるのかなと思っていたものがやはり多い。その中で、これはと思ったのは、先ほどから話題になっている④の

「発展的な文化芸術活動の推進」です。今までの他のところの文化芸術の範囲には入っていない、この災害文化をこの仙台では、文化芸術活動の中にうまく取り込んでいこうという、これは非常に積極的で重い試みなんじゃないかなと思って、私は高く評価したいと思っています。例えば概要版の２ページで１から 11 をずっと見たときに、言葉の使い方として、発展的な文化芸術活動、ここで「発展的」が浮いて見えるのは明らかなんですよね。ただ、例えば、本編の 34 ページやそれから具体的な取組み等を読んでいくと、これは明らかに震災からの復興、そういったものを文化として仙台市としては扱う、それを文化芸術として昇華させます、そうした表明のような感じなのだろうなというふうに思い、非常に評価しました。

もう一つここは評価すべきなのかなと思いましたのは、仙台市は奥羽山脈から仙台湾の海沿いまで広いわけですが、中心になっているのは都市部、私の言葉では旧城下町、あの辺が中心に扱われていると思いましたが、幸いにこの４番の「発展的な文化芸術活動の推進」のところで扱っている取組みは、海岸部に該当しますので、仙台市としては、都市部だけではなく、海岸部にも文化芸術活動の目を光らせていますという部分で高い評価が与えられるんじゃないかと思います。

それから、実はその視点でいくと、山間部が抜けているのではないかと思っています。ここは大きな提案にはなるのですが、基本施策⑦の民俗芸能なのですが、文化芸術活動は皆、担う人がいるわけですが、民俗芸能の場合には、担う地域があって、担う人がいるという、「地域」というものが密着しています。例えば、仙台の民俗芸能で一番有名なのは秋保の田植え踊ですけれども、田植え踊というのは、東北地方独特のもので、しかも、秋保の田植え踊は日本で唯一、国指定の重要無形民俗文化財になっているものです。そこで、基本施策⑦の民俗芸能等の継承・普及啓発だけにとどまらない形で広げるということができないだろうかと思いました。秋保の田植え踊はもともと座敷田植えで、下足を履かないで、家の中で行う田植え踊です。他のところはほとんど下足を履いて民家の庭、庭と言っても家の中の庭と外の庭があるのですが、そこで行うのが田植え踊ですが、秋保それから宮城町の田植え踊は、座敷田植えで、履き物を脱いで部屋の中で行うということが特徴です。江戸時代の終わりから大正ぐらいまで、招待芸能といって、何か所も田植え踊を行っています。正月が田植え踊の季節ですが、そこで各地区で他の地区の田植え踊を招待して、皆で見て、その後大宴会を開く。それが楽しみで行っているのですけれども、そういうところに土壌があるので、幸い、大倉に古民家を移築した公園がありますが、あのようなところを使って、田植え踊というのは、本来こういう形でした、そして、そうした中で子どもたち

を交えた形で基本施策の⑤ですとか、それから昔の形をきちんと届けるという⑧のアーカイブの推進ですとか、色々な形でできるかなと思います。これは検討していただくだけで結構なのですが、仙台にはそうした特徴的な、田植え踊そのものが、もう既に東北独特のもので日本の特徴的なものなのですけれども、さらに、仙台市の田植え踊というのは、そうした特徴的な田植え踊の中でもさらに特徴的な田植え踊であるという部分で、それを発信するということもありかなと思っています。

垣内会長　ありがとうございました。地域全体で継承する、地域の歴史の事業を行うなど、いろいろ散りばめていますけれど、その具体的な内容について今コメントを頂戴したという理解でよろしいですか。中間案をこのように修正するなど、そうしたことはございませんか。

笠原委員　具体的な形で修正というのも難しいかなと。これはこれでまとまってる部分がありますから、余地があればということで、お話をさせていただきました。

垣内委員　わかりました。ありがとうございます。それでは事務局の方でご検討いただくということにしたいと思います。他に、ご意見ございませんか。それでは青木委員、お願いいたします。

青木委員　中間案を拝見し、より具体的な内容が盛り込まれており、これまでの議論や初回で紹介されていた市内の取り組みなど、改めて繋がりを確認できたと思います。

今後、市民の方にも公開をしてご意見を求められるということもありますので、念のため確認をしたいところがあります。第４章の具体的な取組みの中で、それぞれの項目のところに主な取組みとして、いくつかの事業が明示されています。その中で、「新規」と記載されている事業があります。これは、現段階で令和６年度以降に、新規での取り組みが決まっているということでしょうか。今後５年間の計画ということですので、計画期間の中で、新しい取組みは含まれていくという理解でよろしいでしょうか。

２つ目は、29 ページに、各文化施設の取組みの充実として、市内にある文化施設の名称が書かれています。一方で、市内には、例えばエル・パーク仙台や国際センターなど、公共施設も多々ありまして、その空間やそこに関わる方も文化芸術に関連する事業も連動して行っています。公共空間の取組み、公園ですとか、そういったところの空間を活用する活動というのも、今増えてきていると思います。そうした観点から文化施設の取組みが充実していくというところはもちろんあると思いますが、その他の施設や、そことの連携や協働のような取組みの観点などはあるのでしょうか。

３つ目は、少々お手間がかかることかもしれませんが、様々な施設や先

ほどメディアテークの話もありましたけれども、仙台市の文化施策に関係する年表というのでしょうか、施設の設置や、取組みの裏付けになる法律の変遷、そういった情報なども、特に私どもの市民活動では、歴史から学ぶという観点から、過去にどういったものが取り組まれてきたか、国の施策や仙台市の動きをよく取り上げることがあります。どこまでさかのぼるかということはあるかもしれませんが、仙台市独自で取り組まれて、現在にも継承されている、あるいは震災やコロナ禍により新しい動きとして生まれたことなど、網羅するのは難しいと思いますが、本計画に紐づき歴史を学べたり、知るきっかけになるような情報がまとまっていたら良いのではないかと思いました。最終版、あるいは５年の計画のところでなくとも、徐々に更新をして情報が充実されるような、そんな取組みがあっても良いのではないかなと思いました。以上です。

垣内会長　ありがとうございました。３点ご質問、コメントかと思います。事務局の方から追加でご説明をお願いできればと思います。

文化振興課長　まず１点目の基本的な施策に記載しております主な取り組みについて、「新規」と書いてあるものにつきましては、今後予算の確保ができればという状況ではありますが、今のところは来年度以降に実施を予定している事業ということでございます。また、計画の期間が５年間ございますので、ここに記載はまだしておりませんが、その計画の施策の方向性に沿った事業というものも、今後５年間の中では当然検討してまいりたいと考えております。

それから２つ目、29 ページのところで記載をしている各文化施設以外の、例えばエル・パークであるとか国際センターといったところ、文化事業、色々な催し等で使われている施設も確かにございます。当然そういった施設とも、事業の中で連携を図っていくというところはあろうかと思いますけれども、特に計画の中でそういったいわゆる文化施設以外の市の施設との連携といったところまでは掲載しておりませんが、事業の中では当然連携してまいりたいと考えております。

それから、これまでの市の施策の変遷や年表につきましては、特に市の取組みといったところについては、全体版の９ページからの「本市の文化芸術振興に係る取組み」の中で、これまでの市の施策の取組みについての振り返りについて記載をしているところではございます。年表等の掲載については、検討させていただきたいと思います。

垣内会長　ありがとうございます。年表というか、いつぐらいにせんだいメディアテークができたなど、大きいところがわかるような図があると仙台市の主な発展経過が見えるという、そういう趣旨かなと思いますので、少しご検討ください。では次に、柴崎委員、お願いします。

柴崎委員　全体としては、この計画をもとに、文化芸術から遠ざかっていたかもしれない人たちが多様な活動を享受し、参加し、あるいは創造発表するということがイメージされていくような、肉厚の計画になってきたのかなと感じています。感謝したいと思います。その上でいくつか検討いただきたい点がございます。

１つ目は、31 ページ、基本施策②「文化芸術による社会包摂に係る取組みの充実」の主な取組みの中で、「障害福祉団体への助成」と限定的に書かれていることが気になります。32 ページには、「地域の社会課題と向き合う文化芸術活動に対する助成」と書いてあるのですけれども、この民間の団体の中には障害福祉団体ではない団体、つまり社会教育、あるいは文化芸術の団体が障害のある人たちの芸術文化に寄与することを行っている例があります。「障害福祉団体」と限定的な書き方にすると、誤解を招くところもあるので、言葉を少し変えて、「各種団体」ぐらいでも良いのかもしれません。今、実際に活動している人たちの団体の種類に照らしたときに、文言を変更した方が良いように感じております。

２つ目は、前回の会議で「鑑賞」と「参加」というキーワードについて話をさせていただきましたがこれに関することです。52 ページに指標があります。その３つの指標の中に「鑑賞する市民」の割合があります。前回のアンケート調査を見ると、この鑑賞の対象は、ほぼ音楽や演劇、ミュージカル等で、これまでの施策でここが充実していたからこそ現状 79.1％という高い数値が出ていると思うのですが、全体の計画が幅広になって、今後、例えばワークショップや現代アートのプロジェクト、それからメディアテークなどが行っている対話を重視した哲学カフェ、さらに歴史体験、自然体験というように芸術文化の幅を広くとらえたときに、この「鑑賞」という現状の言葉でアンケート調査をとって、このまま踏襲してしまうと、せっかく計画に反映した、幅広い芸術文化に接した市民の変化をしっかりとらえられないのではないかと考えています。経年の動向把握ということはとても大事なのですが、改めて今から新たに生まれ変わっていく仙台の文化芸術のその幅を示すためには、市民が「鑑賞」「参加」したという意味で、しっかりと計画の現状を反映した指標の取り方を検討していただけたらなと思います。

それから３つ目です。37 ページから、子ども等に関わる活動がいろいろと書かれています。「学校教育」という言葉が何度も出てきていて、これはこれでとても重要ではあるのですが、仙台市も不登校児が多く、フリースクールや自主夜間中学、あるいは生涯学習ということで、社会教育にも力を入れています。なぜこの話をするかというと、「学校教育」ということに限定してしまうと、いろいろな政策あるいは支援ということが漏れ落ちてしまう

かもしれません。ですので、ここは今一度、生涯学習の専門の皆さんとともに「学校教育」と限定的な言葉から、「教育」とするとか、「社会教育」「生涯学習」などのキーワードも表現した方が、仙台の子どもたちの支援やこれからの課題に対して、文化芸術活動を通じて人々が環境形成していく方向性に合っていると思います。もう少しだけ言葉を検討していただければと思います。

最後に、パブリックコメントの取り方が少し気になっております。今回の計画は、「障害者による文化芸術活動の推進に関する計画」にも位置づけるということで、障害がある人たち自身が自分たちに関わることとしてこの計画が作られるというときに、この冊子は何十ページもあり、結構、難しい漢字もたくさんありますので、例えば説明会をしてそこでみんなが意見を言えるとか、リラックスしていられるような場所で何かコメントをできるようにするとか、あるいは概要版やわかりやすい版を作るとか、工夫をする予定があるかということでお尋ねです。以上になります。

垣内会長　ありがとうございます。いくつかお尋ねがございました。事務局の方から補足のご説明をお願いいたします。学校、福祉、障害者福祉団体など、決め打ちで、それ以外の関係ある活動をされているところが抜け落ちてしまうのではないかというご懸念もあったと思います。特に学校については「学校教育」と書かなくともその前に、学校、保育所というような形で幅広く書いてあったりするので、少し問題もあるかなと拝見しましたが、よろしいでしょうか。

文化振興課長　まず 31 ページの一番下、各種障害福祉団体といった決め打ちのような表現にしているところについては、検討させていただいて修正の方向で考えております。それから 37 ページ以降の「学校教育」に限定されないような書き方が良いのではないかといった点につきましても、社会教育といったところも含まれているような表現の仕方について、修正をさせていただきたいと思います。それから最後、パブリックコメントの実施でございますけれども、今のところは、説明会について実施の検討はしておりませんが、11 月 26 日にシンポジウムを開催をする予定にしておりまして、その中で、この中間案については、ご説明を参加者の方にさせていただきたいと考えておりました。なお今回の計画が、障害者の文化芸術活動の推進に関する計画にも位置付けられるといったところがございますので、その周知の方法についてはそういったところも踏まえて、再度考えたいと思います。

垣内会長　よろしいですか。ありがとうございます。それでは一通りご意見を頂戴しました。全体を通して他の委員の先生方も同意されるかと思いますけれども、具体的な内容が入りまして、よりイメージが鮮明に伝わるようになった

のかなと思います。ただ、仙台市は大きな都市なので、たくさんの事業を行っていて、全体像が簡単に分かるというほど単純ではないというところがありましたので、最終的に概要版を作る時にはぜひ、全体像が分かるような形で、今も図表は付いておりますけれども、ぜひ分かりやすい形で、特に新規のものはどういうものがあるのかというところを説明していただければ良いなと思いました。

それから他の委員の先生方もおっしゃいましたけれども、52 ページの計画の推進のところです。基本計画ですので、具体的に細かい話は入っておりませんし、予算の話も入ってないという状況なのですが、計画はやはり誰がどのように実施するかによってどんな成果が生まれるのか、ものすごく大きく変わるものですから、ぜひこのあたり、１ページにあっさりまとまっておりますが、庁内での推進会議、これは実効性があるものをぜひお願いしたいと思います。他の自治体でもいろいろな推進会議とか推進本部とか、局長さんとかたくさんいらっしゃって、年に１回ぐらい顔合わせみたいな感じでやってらっしゃるところもたくさんあるのですが、そこはきちんと実効性を持たせる形で推進会議を作っていただければと思いますし、関係団体、外郭団体との連携、これも非常に重要なことです。市民や文化芸術団体、アーティストの協働、これを具体的にどのような形で行っていくのかということは、ぜひ現場の方々のご意見も聞きながら、様々なご意見が上手く反映されるような形で、作っていただければ良いと思います。お金の話は、今回の基本計画ではなかなか入らない部分かと思うのですが、私としては 48 ページの「目指す姿１～５を横断する施策と取組み」の中で、「これからの文化芸術を支える仕組みの構築」、これはすごく重要だと思っていて、担い手の育成と活動環境の向上に向けた検討なのですね。担い手を育てるというのははっきり書いてあるのですけれど、私としてはこの「活動環境の向上」も重要と思っていて、それは公的な資金だけではなく、そしてまた入場料など、直接鑑賞してくれる、活動を一緒にしてくれる方々からの費用の回収だけではない、仙台の企業さんはもちろんですし、いろいろな市民の方もいらっしゃるでしょう。そういった方々からの様々な支援をうまく取り込めるような、活動環境の向上ですね。例えば、ぱっと思いつくのはガバメントクラウドファンディングとか、今般、国立科学博物館が行っていたクラウドファンディングもありましたが、あれは最終手段かなというふうに思いますが、色々な形で活動に必要な資源を調達できるような活動環境の向上というところもぜひ、お考えいただけるとすごくありがたいというふうに思います。あとは、各委員から本日出されました様々なご意見、コメントを上手く、この報告書の中に、中間案の中に盛り込んでいただいて、ちょっとメリハリをつけてい

ただいて、書けるところは具体的に書いていただくというようなことで、整理していただければと思います。

他にございますか。では、山田委員、お願いします。

山田委員　最後に１点だけ確認なのですが、先ほどから各委員から国際化という話が出ましたが、世の中の枠組みからすると、国際的な枠組みです。やはり持続可能な目標、つまり SDGs というのが、世の中トレンドとしてあるので、仙台市のスポーツ推進計画の中でも実は SDGs に言及されているので、どの項目も多分おそらく 17 の項目あると思うんですけど、何かしらの関連性があって、やはり 2030 年まで SDGs があるので、これが 2024 年から 2028 年までの５年間ですから、その中で、SDGs そのもの自体に対する関連性というか、そういったものも１つはあっても良いのではなかろうかと思ったので、ここで発言させていただきました。

垣内会長　SDGs については最初に少し記述があるかと思います。国際的に言うと、気候変動にどれだけどういう形で対応するのかということ、文化も要求されていて、この間、イギリスのファンディングの基準を見ていたら、SDGs にどういうふうに関わってきたのかとかいうのが１つ項目に入っていてびっくりしました。もう少しそういった点をどこかに入れていただくということでよろしいでしょうか。それでは最後に、吉田委員お願いいたします。

吉田副会長　21 ページの全体構造図に関して、これは確認ということでお願いします。それから期待することをもう１点、２点ほどお話をさせていただければと思います。

この全体像、この構造図、非常にこれから施策を実施するにあたっては、頭の中でイメージするのに非常に重要な構造図だと思っております。それで、あくまでも１つの考え方ですけれども、やはりこの構造のあり方は、基本理念があって次に目指す姿があって、そして実現するための基本的な施策があって、そのあとその施策の中でも５年間力を入れて取り組む施策として、重点プロジェクトと言うような流れが自然のように感じるのです。ただ、今回の場合は重点プロジェクトがその目指す姿のその次にきているということは、それだけ強い思いと、それから確かな意図というものがあると思うのですね。その辺を我々は共有した方が良いと思いまして、その辺のところを確認させていただきたいと思います。

それからもう１点、期待ということでございますが、先ほど五十嵐委員からも出ましたけれども、メディアテークができた頃のいわゆる創設期の活気というものが少し弱くなってきているという話がありました。それはもしかすると、視覚芸術のあり方に関することかなとも受けとめたわけです。菅野委員も視覚芸術について前に少し触れられましたね。それで、実際この視

覚芸術に関しては、第１章の仙台市の文化芸術の現在地の（３）現代アート云々というところで、触れられているだけなのです。その他はだいたい「楽都」「劇都」ということなど舞台芸術を中心にした施策の展開になっています。このことは仙台市の個性ということで、やむを得ないところがあるのですけれども、目指す姿のところに、１つ目に「あらゆる人に参加機会がひらかれる」、そして２つ目は、「多様な文化芸術活動が展開される」ということが触れられている以上、余裕がありましたら、そこに視覚芸術のあり方についても、何か触れる場面があったら良いのかなという、これは期待でございます。よろしくお願いします。以上です。

垣内会長　ありがとうございます。２点ございました。

文化振興課長　重点プロジェクトの位置、基本的な施策との関係についてでございますが、確かに吉田委員のおっしゃる通り、基本施策、それからそれに紐づく主な取組みについては、網羅的に本計画を元とした取組みというのをお示ししておりまして、その中で特に重点的に取り組むといったものを重点プロジェクトとして、テーマごとに４つにまとめたといったところがございます。重点プロジェクトの方が順番として先にきているということでございますが、本計画は文化芸術の分野において市民の皆さんと共有をする初めての計画になるということもありまして、計画策定によって、どのようなことが今後進められていくのか期待をされている市民の方々も多くいらっしゃると認識をしております。そこで、その計画の大きなアピールポイントでもあります重点プロジェクトというのを先にお示しをするような構成にしたところでございます。

生涯学習部長　メディアテークに関して、本日、たくさんご意見いただきましてすごく期待をしていただいているんだなということを、とても重く受け止めさせていただいております。その中でも、最近、以前のようなメディアの部分ですとか、若手のアーティストの活躍の場というところでの活動が少ないのではないかというご指摘につきましては、今、設立した当初と、震災を契機に、少し活動の方向性が変わってきている部分というのがあります。震災を契機に、メディアテークという場に集まってもらうということも、もともとかなり比重として大きかったのですけれども、地域に出て行って、地域と寄り添ってその地域課題を解決する中で、アートというものを使って、まちづくりや人の心の復興に役立つというところをかなり重点的にやってきている部分というのがありまして、その辺りで活動の見え方というのが違ってきてる部分があるのかなと。ただ、そのメディアというところに関しては、かなり時代の変化というのがこの 20 年大きくございましたので、今、メディアというものを手段として、どのように用いることで、色々な人に訴求していくか

というところを改めて考える段階に来ているのかなということは、メディアテークとも話しております。今後、具体的な活動の中で、メディアについての取り組みというのを、また改めて考えていきたいなと思っているところです。計画への反映については検討させていただきます。ありがとうございます。

垣内会長　ありがとうございました。お時間も大分迫って参りました。今回パブリックコメント実施直前の委員会ということでございます。もし委員の先生方、後で気づいた点、その他ございましたら事務局の方までお知らせください。できれば具体的にここをこのようにしたらというようなご意見で頂戴できると大変ありがたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、最後にその他ということで、これから行われるシンポジウムについて事務局よりご説明をお願いいたします。

【（２）その他】

・事務局より資料４に基づき説明。

垣内会長　ただいまのご説明につきまして、何かご質問ございますか。では、五十嵐委員、よろしくお願いいたします。

五十嵐委員　今回のこのシンポジウムについては、対談したことがある研究者が登壇しており、心配していないのですが、以前メディアテークで漫画の展覧会をやったときに、せんだいスクール・オブ・デザインで制作していた雑誌で、展覧会レポートの内容がコントロールされるという経験をしました。ですから、東京の、権利を持った出版社と代理店が完全に主導になったり、市側が忖度するような形での展開はしないで、コントロールは主催側で主体的に持って欲しいと思っています。ちょうど今、金沢建築館というところで「アニメ背景美術に描かれた都市」という展覧会が行われていて、その監修を担当しているのですけれど、これはキュレーターとコーディネイターがかなり努力して、交渉して、こちらが主導してサブカルチャーを独自の視点で読む展覧会を開催しています。アニメ、漫画は下手をすると、先方の意見がどうしても強くなりがちなので、そこはすごく気をつけて、取り組んでいただきたいと思います。

垣内会長　ありがとうございました。お時間があればぜひお出かけください。

さて、本日の議論を踏まえまして、次回は計画の最終案についての議論になります。先生方、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。それでは進行を司会にお返しいたします。

４. 閉会

・司会より、次回の懇話会の予定（２月上旬）をお知らせし、閉会。

―以上―